



個人投資家向け説明会

株式会社FRONTEO 証券コード 2158

2025年9月

CONTENTS

01	会社概要	3
02	事業内容	18
03	ステージ4(中期計画) FY28のイメージ	37
04	2026年3月期第1四半期 決算サマリー	40

01 会社概要

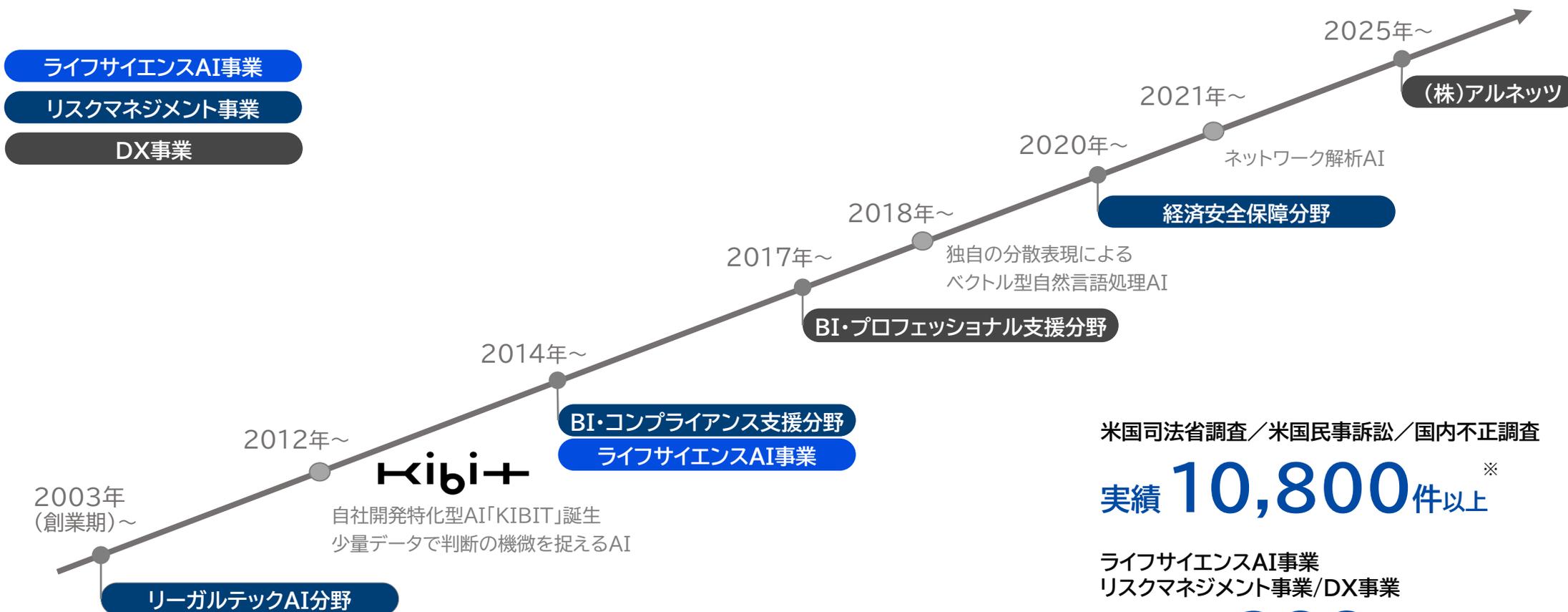
会社名：	株式会社FRONTEO
上場証券取引所：	東京証券取引所グロース市場（証券コード：2158）
代表取締役社長：	守本 正宏
設立年月日：	2003年8月8日
資本金：	899,176千円（2025年3月31日時点）
従業員数(連結)：	206人（2025年3月31日時点）
事業内容：	自社開発の特化型AI「KIBIT」の提供を通じた、社会課題と向き合う各分野の専門家の判断支援 (ライフサイエンスAI事業 / リスクマネジメント事業<ビジネスインテリジェンス・コンプライアンス支援分野/リーガルテックAI分野/経済安全保障分野> /DX事業<ビジネスインテリジェンス・プロフェッショナル支援分野/株式会社アルネッツ・DX内製化支援、システム開発分野>)
主要取引先：	民間企業（化学・機械・教育・金融・建設・小売・自動車・商社・情報通信・食品・製薬・電子部品・電力・保険など） 官公庁（法執行機関・各種監視委員会）、国内外法律事務所、医療機関

Global Offices



特化型AI「KIBIT」を基軸とした当社事業の変遷と実績

2012年の「KIBIT」誕生以降、事業領域の拡大及び課題の多様化に合わせた技術進化を継続



米国司法省調査／米国民事訴訟／国内不正調査

実績 **10,800**件以上[※]

ライフサイエンスAI事業
リスクマネジメント事業/DX事業

導入社数 **388**社^{※, ※※}

※2025年3月31日時点 ※※各製品・サービスの累計導入実績

大手企業を中心に導入

金融機関



製造業



製薬企業



サービス業



大学・研究機関



(一部掲載、順不同) ※2025年6月1日時点

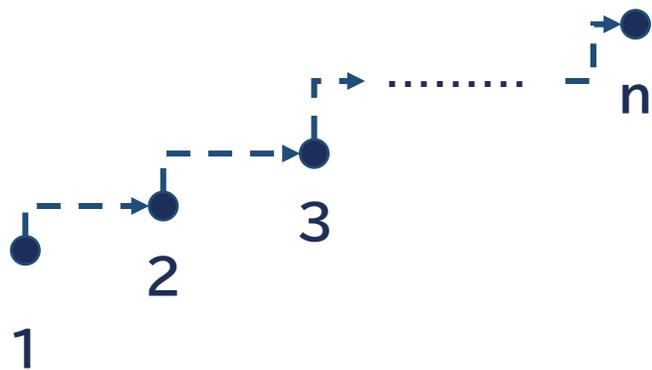
自社開発の特化型AI「KIBIT」の提供を通じて、日夜社会課題と向き合う各分野の専門家を科学的に支援



連続的な発見の限界: 99%の努力の限界

連続的なつながりであるが、
nが非常に大きいと、

1からnの想起は難しい



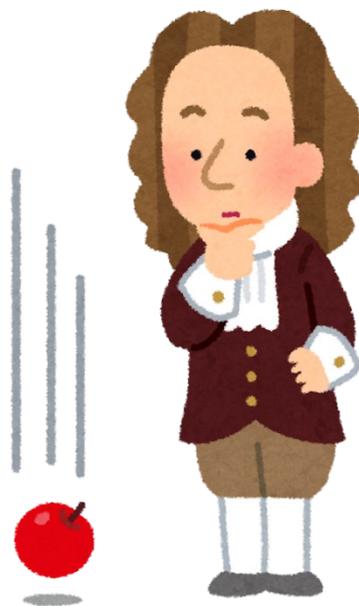
nの想起は難しいが、、、
存在はしているので必ず見つかる

世界のNLP: 連続的な発見

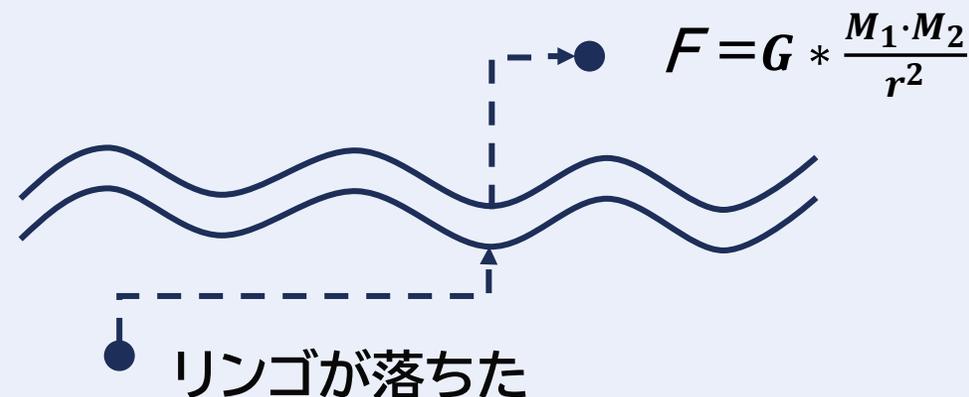


連続的な発見の限界: 99%の努力の限界

KIBIT: 非連続的发现



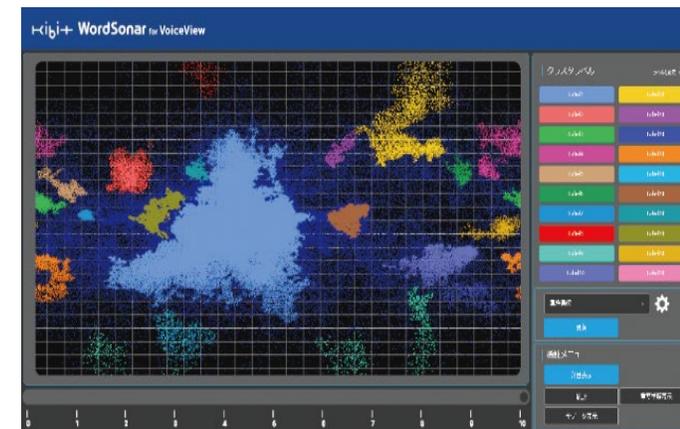
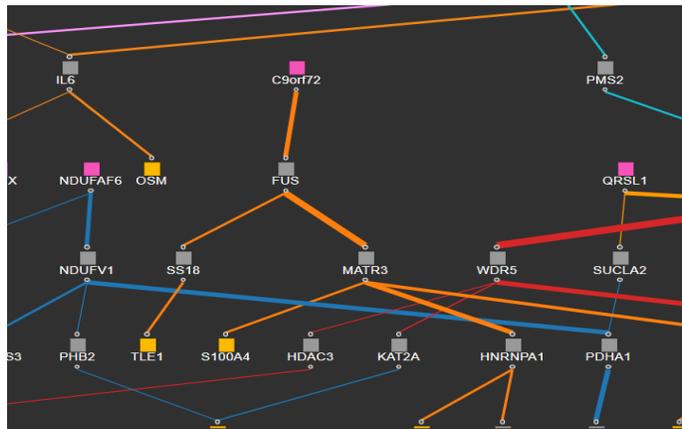
1からnはそもそも連続的なつながりでは
想起できない



万有引力の概念がない時代に、
万有引力の情報はみつけれない

「1%のひらめき」を意図的に誘発するKIBIT

KIBITは“目の前でリンゴを落とす”技術



非連続的なつながりをマップで表現
専門家のインスピレーションを刺激

ひらめきを誘発

Kibit+は

人工頭脳ではなく、

人工知能をめざした

純国産AI KIBIT

数学的アプローチで開発された、軽くて高性能なAI

Green microAI

シンプルな構造

GRU
He died of cancer
2 layers
f-out

解析が速く、精度が高い

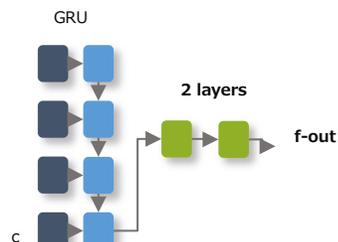
CPUレベルで解析

CO₂排出量の比較 (単位: lbs)

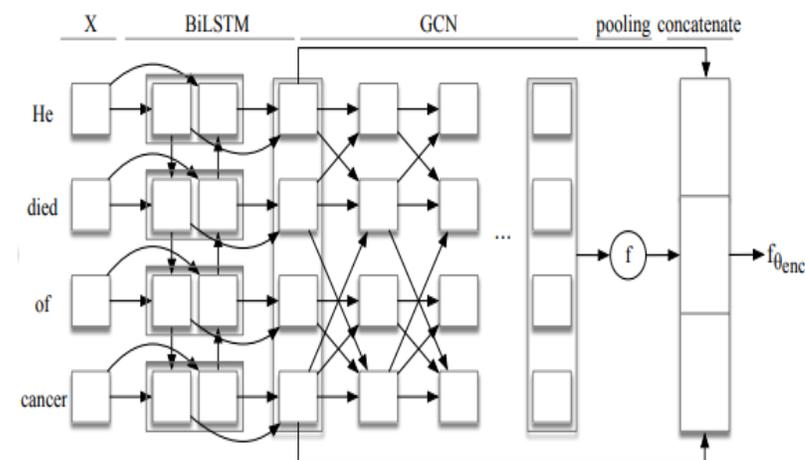
Category	CO ₂ Emissions (lbs)
自然言語AI開発 (Deep Learning) *1	~600,000
自動車1台 (製造-廃車まで) *1	~150,000
米国人1人当たり (1年間) *1	~100,000
日本人1人当たり (1年間) *2	~10,000
FRONTEO (1年間) *3	~10,000

*1 Energy and Policy Considerations for Deep Learning in NLP, College of Information and Computer Sciences University of Massachusetts Amherst (Jun 2019) から抜粋
*2 日本のCO₂排出量及び日本の人口からFRONTEO作成
*3 *1の論文と同様の計算方法により、FRONTEO作成

Kibi+
モデル



GCE
モデル

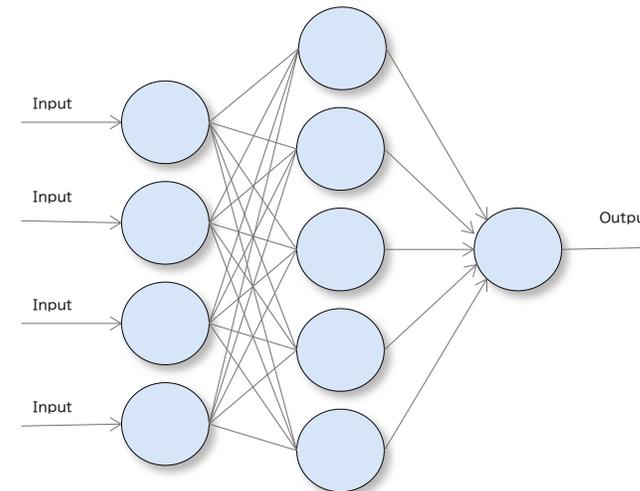


400分の1の構造

設計思想の違い

他のAI(生成AI含む)

人間の脳の神経回路網を数式的なモデルで表現

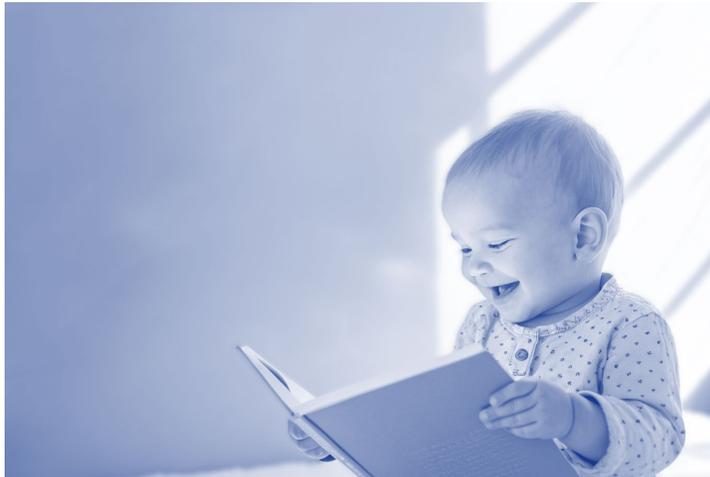


脳(神経ネットワーク)を創造する

設計思想の違い

KiBi+

- 人間の子供が新しい言葉を学ぶ過程
- 人が思考を発展させる過程



人の学び、思考過程 を創造する

KIBITの特徴 ※特許取得済み

■ 論文解析に対する疑問

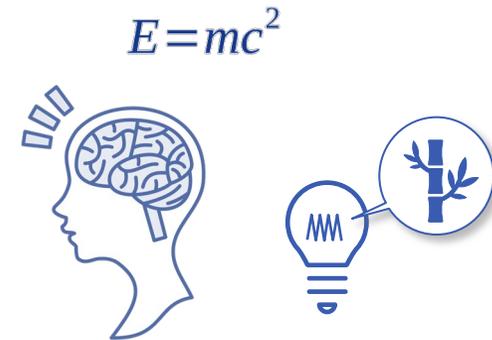
- ✓ 品質の低い論文の影響を受けないの？
- ✓ 論文は公表情報なので新しい発見はできないのでは？

KIBITの特徴 ※特許取得済み

■ 論文解析

- ✓ 品質の低い論文の影響を全く受けない
- ✓ 既知の情報から未知の発見

$$\frac{d^2 x^\lambda}{dr^2} + \Gamma^\lambda_{\mu\nu} \frac{dx^\mu}{dr} \frac{dx^\nu}{dr} = 0$$
$$G^{\mu\nu} = \frac{8\pi G}{c^4} T^{\mu\nu}$$

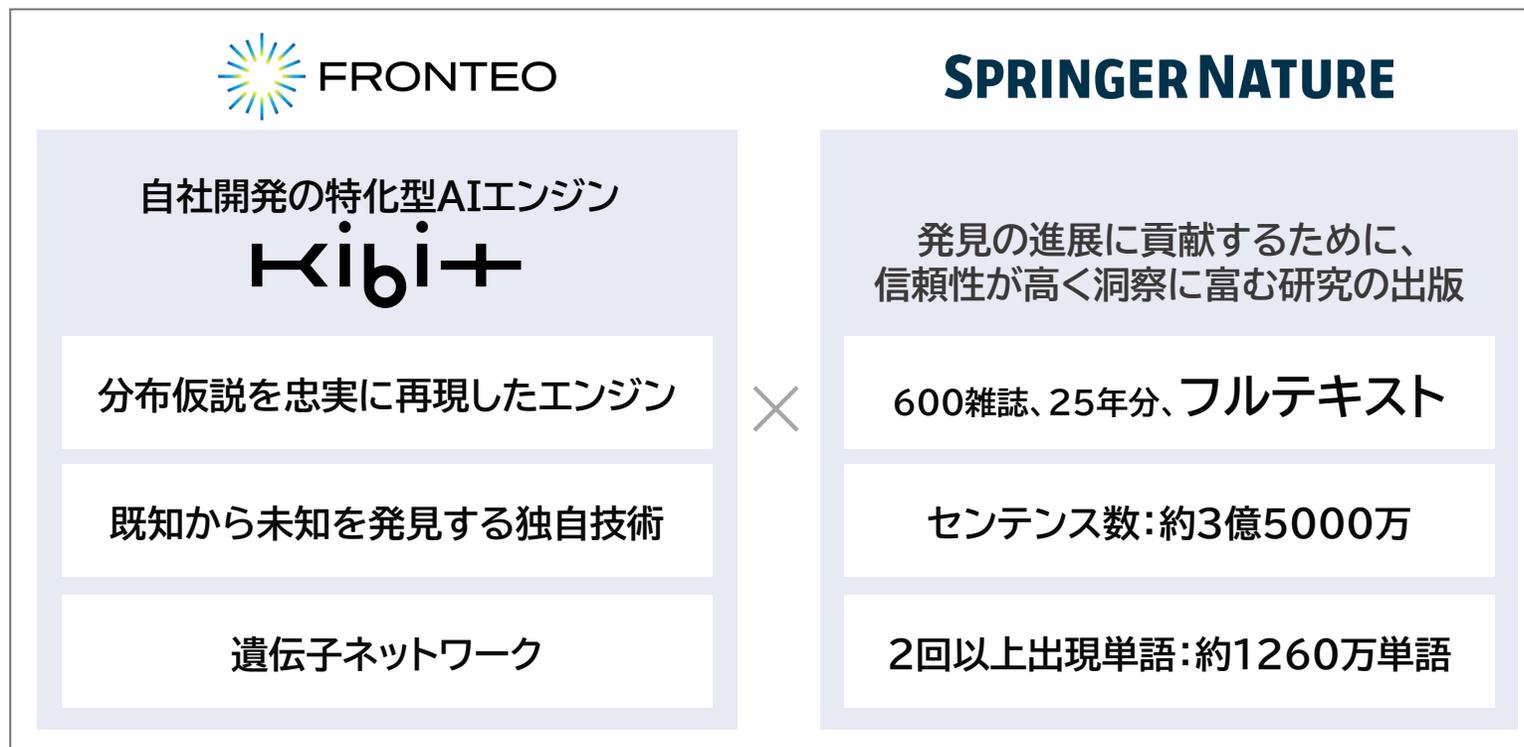


SPRINGER NATURE × **KiBi+**

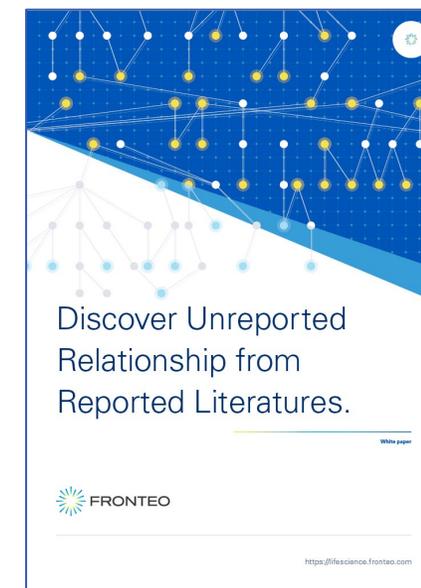
現時点では、**KIBITが世界で唯一**、Natureの論文にアクセス・分析を許されているAI

特化型AI「KIBIT」がもたらす画期的な創薬アプローチに関するホワイトペーパーを公開

- | 既知の文献情報から未知の関連性を発見する独自技術を活用した標的探索やドラッグリポジショニング等を支援するAI創薬支援サービス「Drug Discovery AI Factory (DDAIF)」を推進
- | KIBITが2022年までのシュプリンガーネイチャー掲載文献から予測した未知の創薬標的について、2024年の新しい文献で疾患と遺伝子の関連性が明らかになる



ホワイトペーパー



URL:
<https://lifescience.fronteousingapore.com/whitepaper1>

02 事業内容

AI創薬とAI医療機器 2分野で事業展開

AI創薬分野

- | 「Drug Discovery AI Factory」による仮説生成に特化した創薬支援事業



AI医療機器分野

- | 医療機器プログラムⅡに該当するプログラムを提供
※保険収載を想定

【開発中の製品】

- 会話型 認知機能検査用AIプログラム医療機器(SDS-881)*
- 統合失調症診断支援 AIプログラム
- うつ病診断支援 AIプログラム
- ADHD診断支援 AIプログラム



*厚生労働省より「プログラム医療機器に係る優先審査対象品目」の指定を受け、PMDAに治験届の提出が完了。

2026年度の承認取得へ向けて順調に進捗

ライフサイエンスAI事業 AI医療機器分野 パイプライン

- 「会話型 認知機能検査用AIプログラム医療機器(SDS-881)」について、治験届を提出。2026年度の承認取得を目指す
- 他疾患を対象としたアライアンス及び非医療機器の産業横断アライアンスの協議が進行中

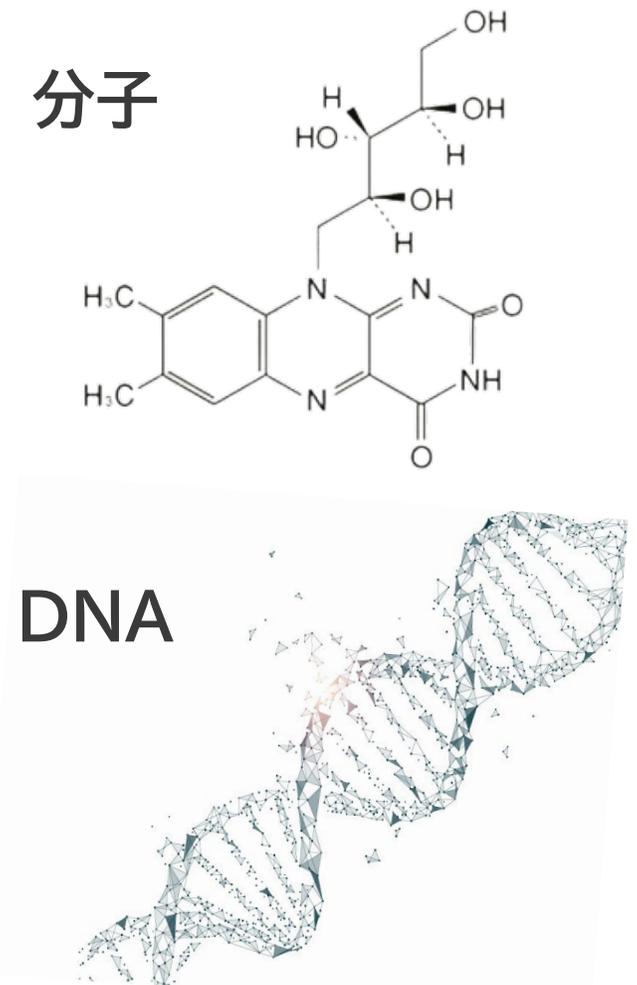
アライアンスのパイプライン



分子

Cc1cc(C)c2nc3c(nc(=O)[nH]3)CN(C2)C[C@@H](O)[C@H](O)CO

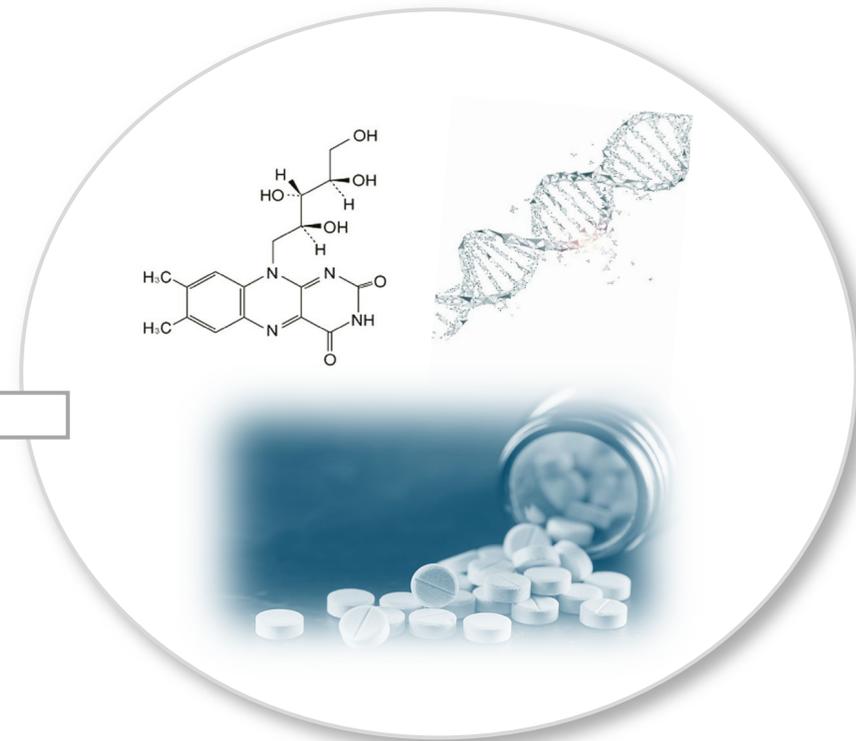
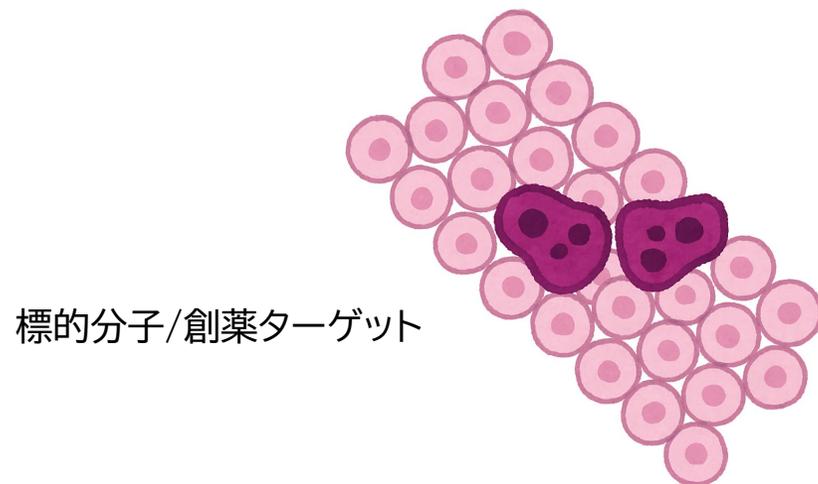
DNA



医薬品



創薬の始まりは標的分子の探索



ただし、標的に作用したとしても、以下のリスクが存在

- × 生理的変化が見られない
- × 副作用・毒性などの悪影響を引き起こす可能性

検証が必須

ライフサイエンスAI事業 AI創薬分野 創薬プロセス

創薬研究初期の探索研究領域でAI創薬支援サービス Drug Discovery AI Factory (DDAIF)を提供し、医薬品開発の成功率向上に貢献

長期間・大規模する予算



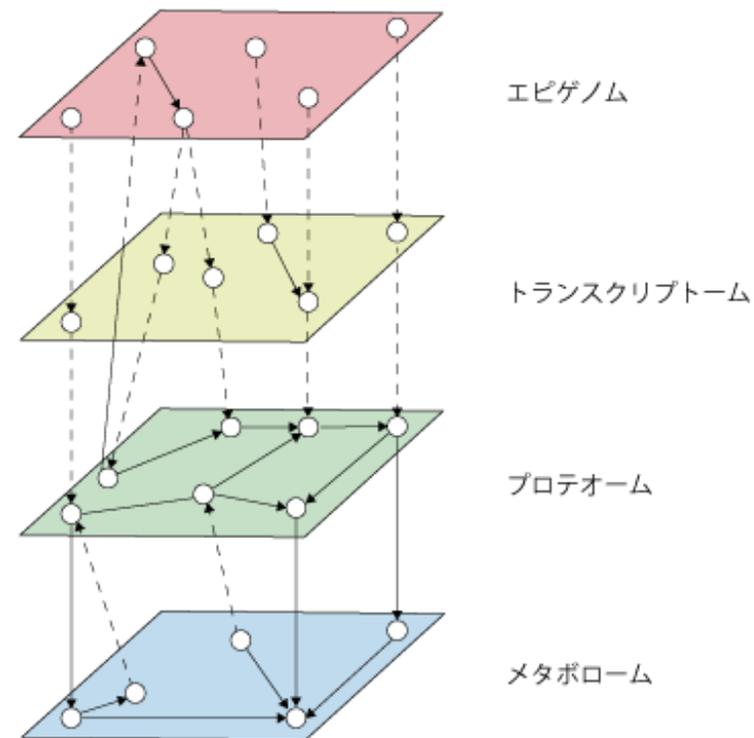
Real World Data (RWD)



スーパーコンピューター & AI



多層オミックス

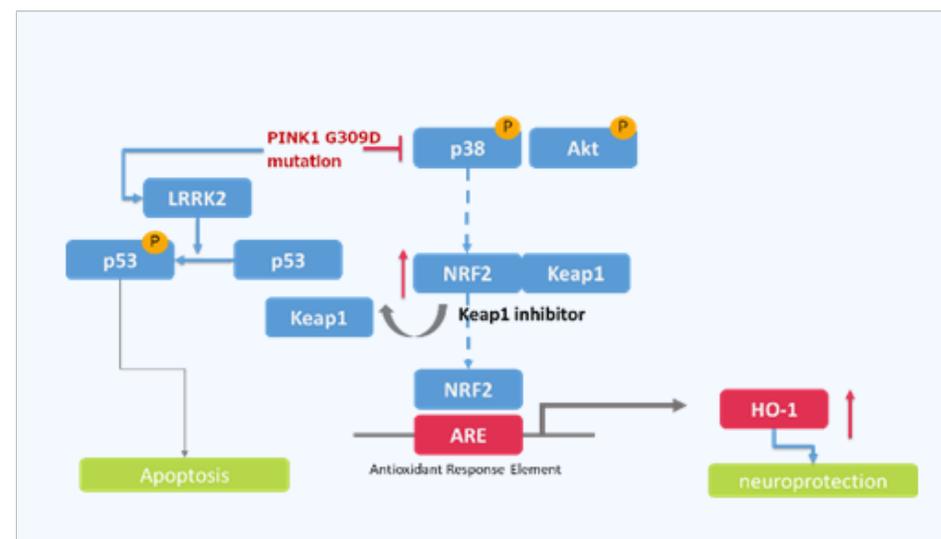


相関関係 では因果関係を
正しく見つける事は不可能

RWD



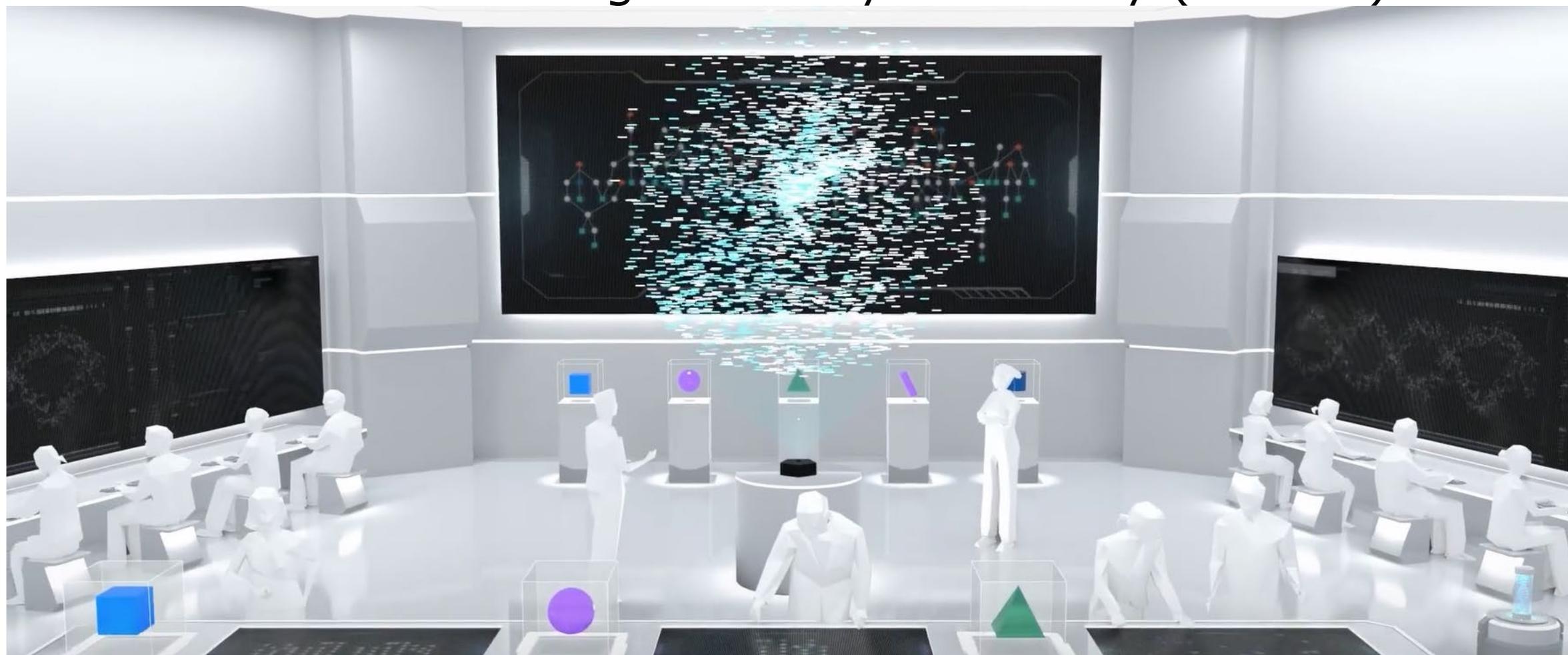
Hypothesis



**優れた論文検索技術がなければ、
リアルワールドデータを有効に活用するのは難しい**

世界初・国産の仮説生成特化型・標的探索・適応症探索

FRONTEO Drug Discovery AI Factory (DD-AIF)



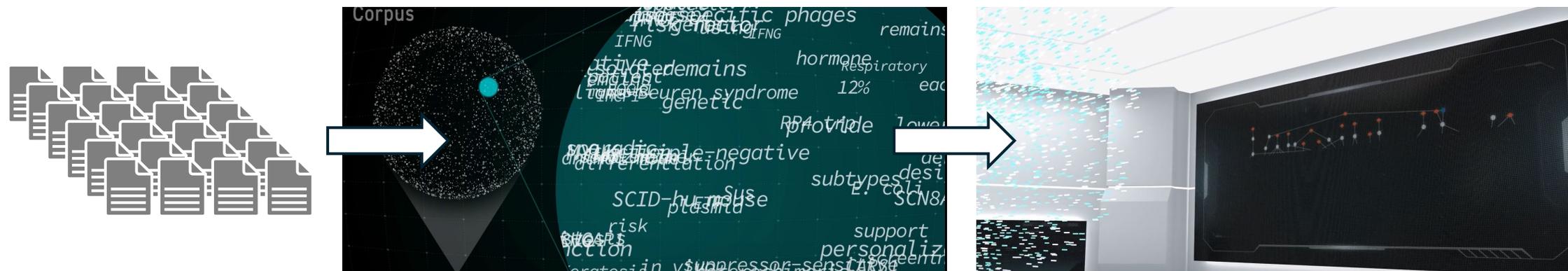
ライフサイエンスAI事業 AI創薬分野 KIBITによる仮説生成

- パスウェイマップを作成し標的分子の関係を包括的に可視化

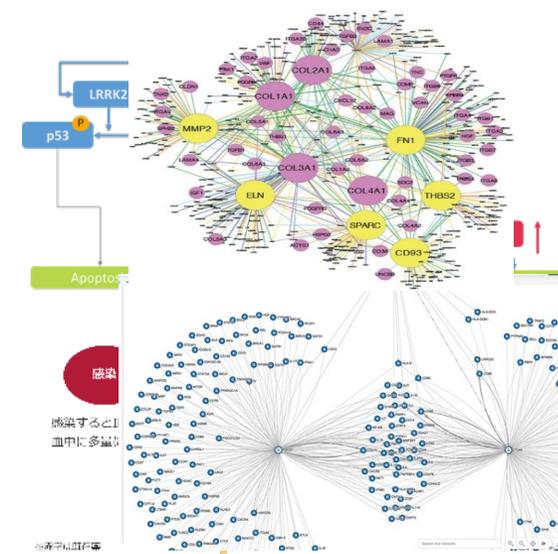
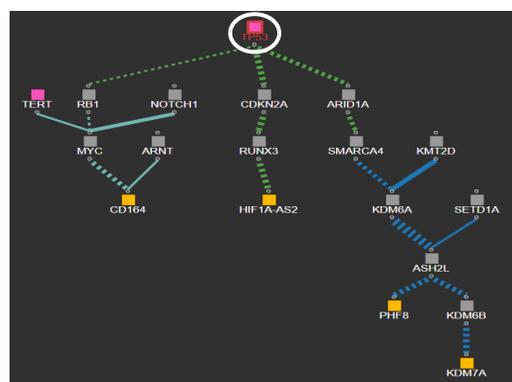
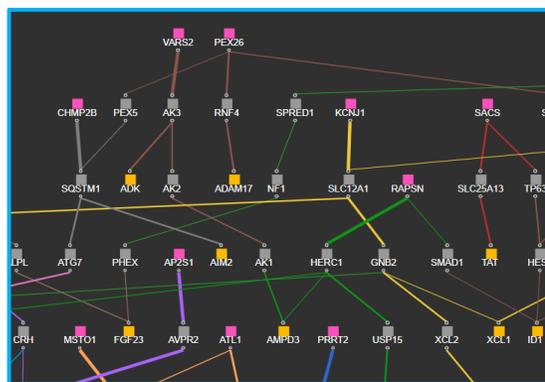
医学論文

KIBITによりコーパスを作成

コーパスからKIBITがパスウェイを作成

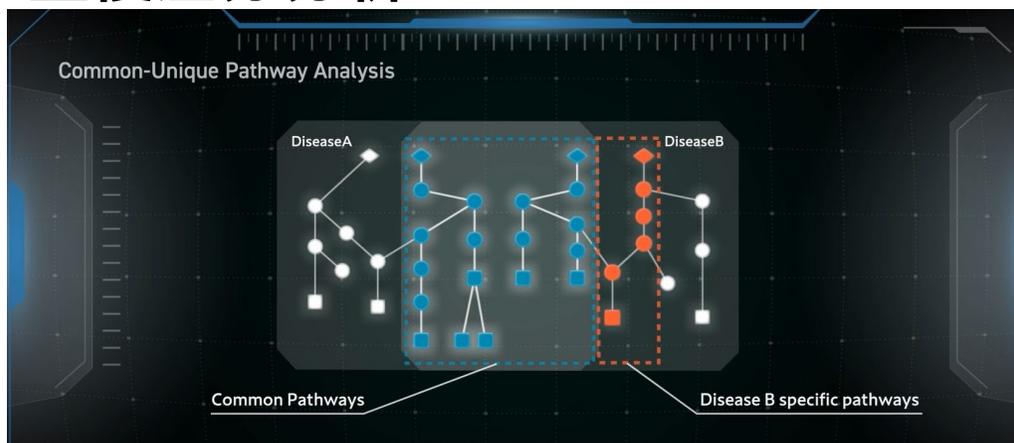


- 因果関係を示唆

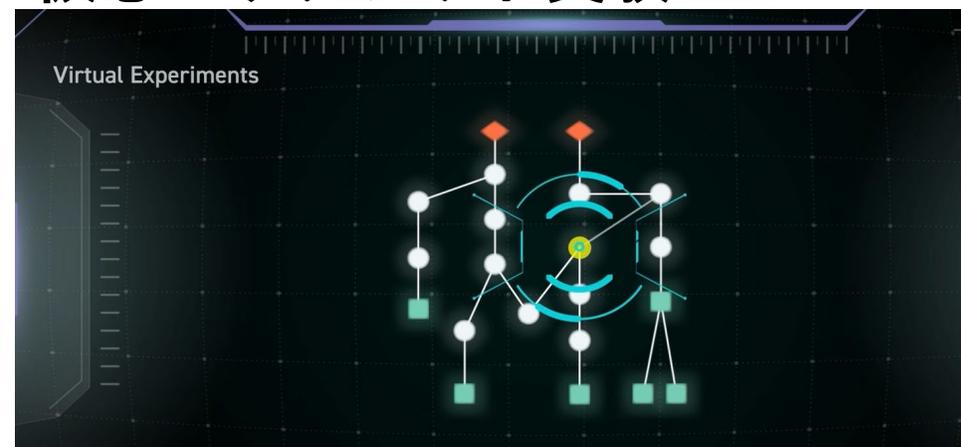


■ DD-AIF Best Known Method(BKM)

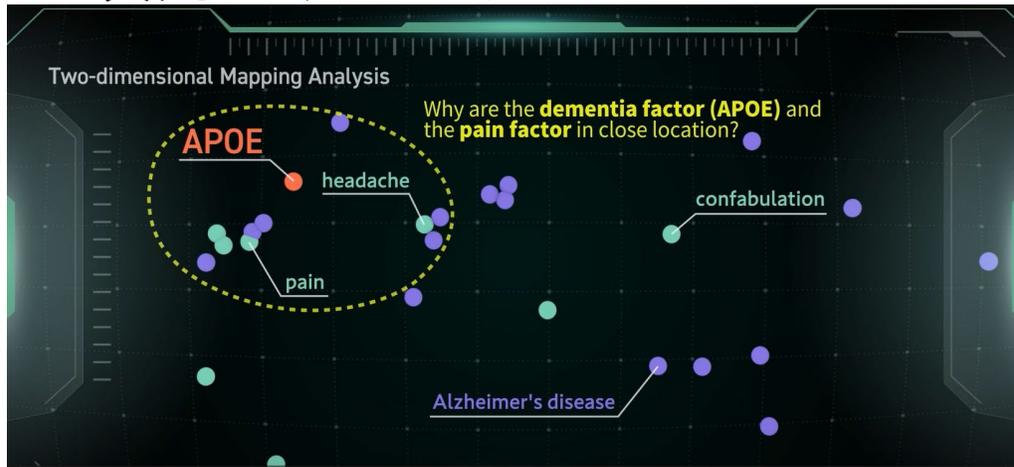
重複差分分析



仮想ノックアウト実験



2次元マッピング

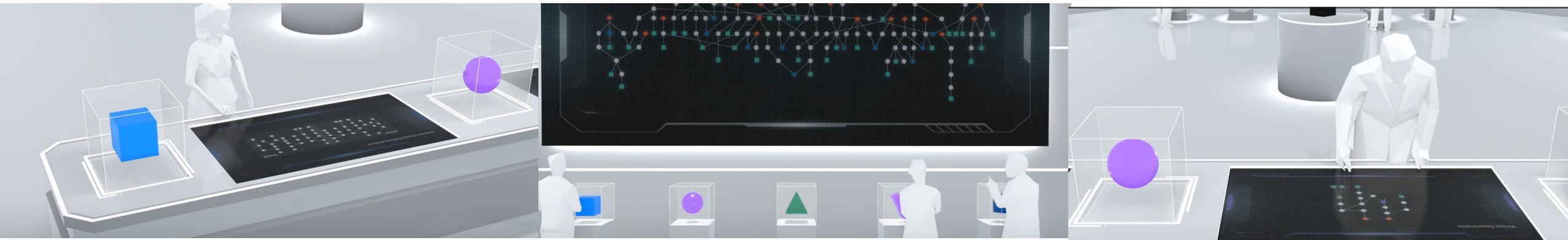


多面的解析

#	Disease name	Relevancy	Causality	Dominancy	Sensitivity	Hepatotox	Nephrotox	CV tox	Lung tox	Neurotox	Tumorigenicity	Organ specificity	Disease specificity	localization
1	DiseaseA	0.964	0.578	1.000	0.818	1.000	0.989	0.989	0.964	0.953	1.000			
2	DiseaseB	0.924	0.542	0.981	0.909	1.000	0.989	0.990	0.989	0.943	1.000			
3	DiseaseC	0.984	0.504	0.981	0.818	1.000	0.989	0.984	0.989	0.953	1.000			
4	DiseaseD	0.887	0.616	0.954	0.727	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	0.967	0.913	Nucleus
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮			
11199	DiseaseY	0.113	0.247	0.031	0.082	0.921	0.976	0.933	0.993	0.878	0.852			
11200	DiseaseZ	0.099	0.155	0.000	0.076	0.779	0.989	0.287	0.743	0.654	1.000			

世界初・国産の仮説生成特化型・標的探索・適応症探索

FRONTEO Drug Discovery AI Factory (DD-AIF)



**未知の発見
仮説・検証**

- | 2023年7月のDDAIF開始以来、特許に裏付けられた技術がPOCでその実績を認められ、製薬企業等との共創プロジェクトへ発展
- | FY25は、DDAIFを核とした「FRONTEO共創型創薬エコシステム」を開始し、多様な共創パートナーとの革新的医薬品の創出を目指す



※公開可能PJのみ記載

ライフサイエンスAI事業 AI創薬分野 自社研究/共同研究から共創プロジェクトへの発展

- | FY25より自社研究・共同研究を起点とした活動に注力
- | 得られた研究成果は論文・学会を通じた公表だけでなく共創プロジェクトへの発展や仮説の売却を通じた収益化を狙う

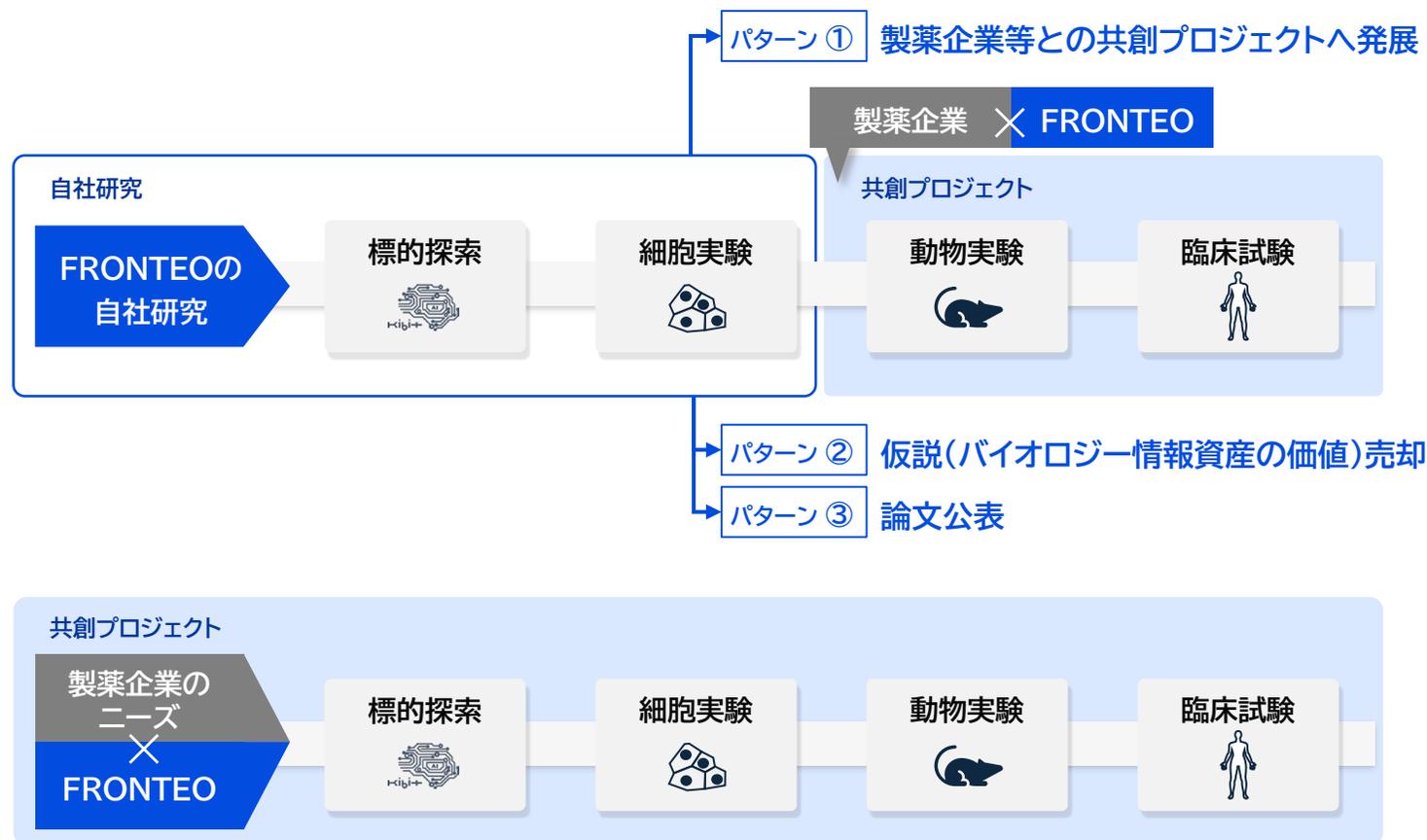
共創プロジェクトの起点

**自社研究
パイプライン**

- 自社研究は中間成果に応じて複数の出口を持つ可能性がある
- 成果をもとに製薬企業等へプロジェクトの打診を行い、連携開始が「共創プロジェクト」の起点となる
- 共創プロジェクトへ進まない場合の出口として、仮説(バイオロジー知見の価値)売却や論文発表などが想定される

製薬企業等のニーズ

- 製薬企業が掲げる疾患領域や治療ニーズを出発点とする
- ニーズに応じたテーマ設定を行い、協働で仮説構築・標的探索を推進
- 以後の検証実験・候補評価までを共創フレームで継続的に実施



ライフサイエンスAI事業 AI創薬分野 パイプライン

- | AI創薬支援サービスDDAIFの実績が積み上がり、FY25通期でのKPI10件*に対し8件受注しており、進捗率80%達成
- | 足元では、複数の製薬企業との契約に向けて交渉中

アライアンスのパイプライン



*ライフサイエンスAI事業のAI創薬分野のステージ4達成に向けてのKPI

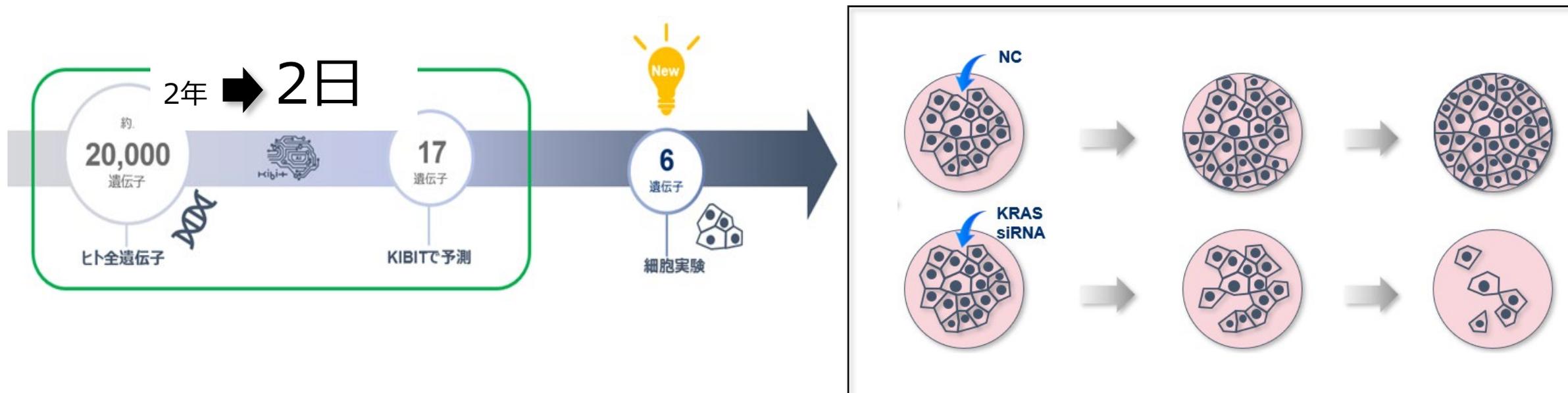
ライフサイエンスAI事業 AI創薬分野 自社研究/共同研究パイプライン

- | 中長期的な収益化を視野に入れた、研究テーマを複数進行中
- | 足元、すい臓がんの標的を複数の製薬企業との契約に向けて交渉中
- | 創薬における仮説生成とバイオロジー深化を通じて、製薬企業等との共創を推進

自社研究/共同研究パイプライン

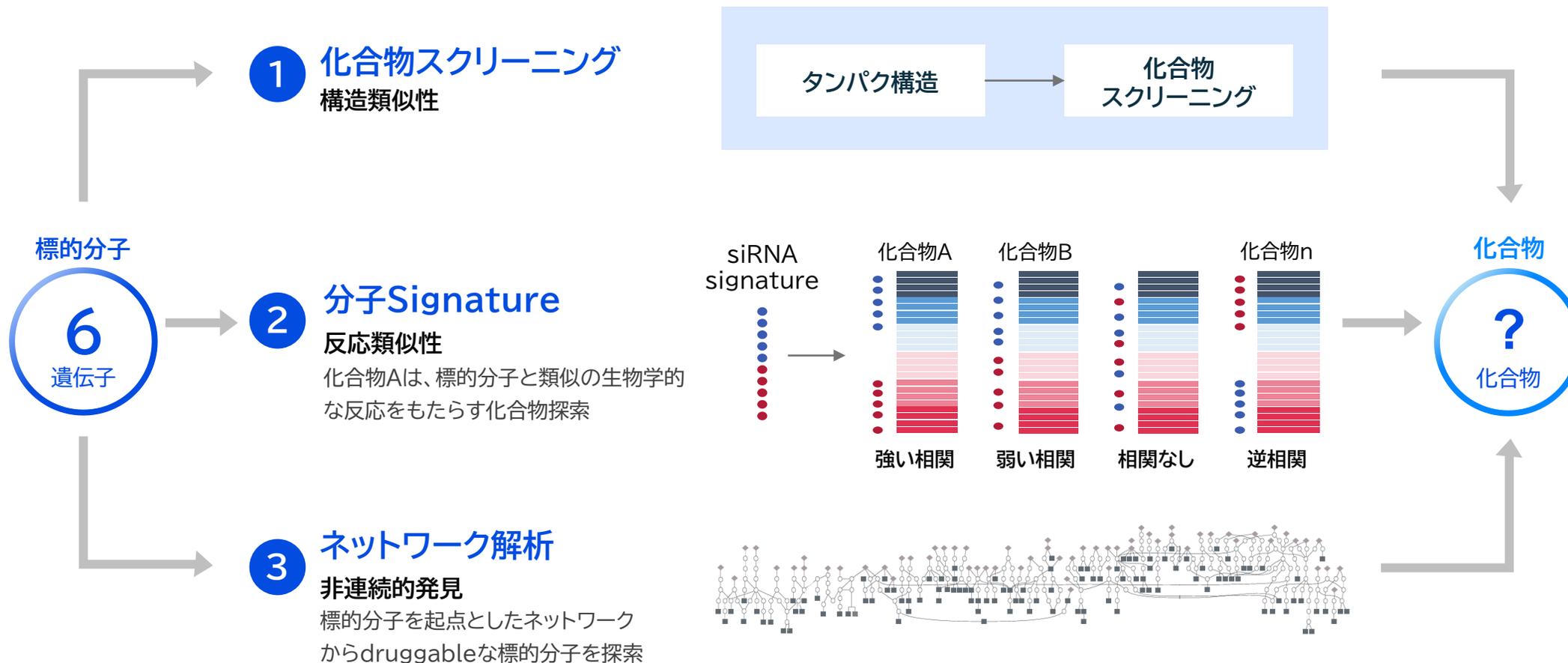
	研究テーマ	疾患領域	現ステージ	パートナー	今後の展望
公開済	新たながん治療法探索に関する共同研究	—	FRONTEOがDDAIFの解析手法を活用し、特定のがん種に対して治療効果のある既存薬を抽出し、熊本大学が細胞実験や動物実験、臨床データの調査などを通じて仮説の検証を行う		
	マイクロバイーム創薬の共同研究	—	マイクロバイームサイエンスに関するデータベース情報をDDAIFで解析し、腸内細菌の作用や、疾患との関連性の探索手法の開発、マイクロバイーム創薬への応用可能性などを検証		
	新規標的分子候補の細胞増殖抑制に対する効果検証	すい臓がん	新規性の高い標的遺伝子の候補17個を抽出、in vitroにて、がん細胞の増殖抑制試験を行い、一定の効果を確認	検討中	標的候補に対して作用するメカニズムを解明薬を構成する化合物の獲得や、動物実験での有効性の確認を目指す足元では、複数の製薬企業との契約に向けて交渉中
未公開	研究テーマA	疾患A	自社での検証を鋭意注力中		—
	研究テーマB	疾患B			—
	研究テーマC	疾患C			—
	研究テーマD	疾患D		X社(協議中)	—
	研究テーマE	疾患E	特許出願検討中	Y社(協議中)	—

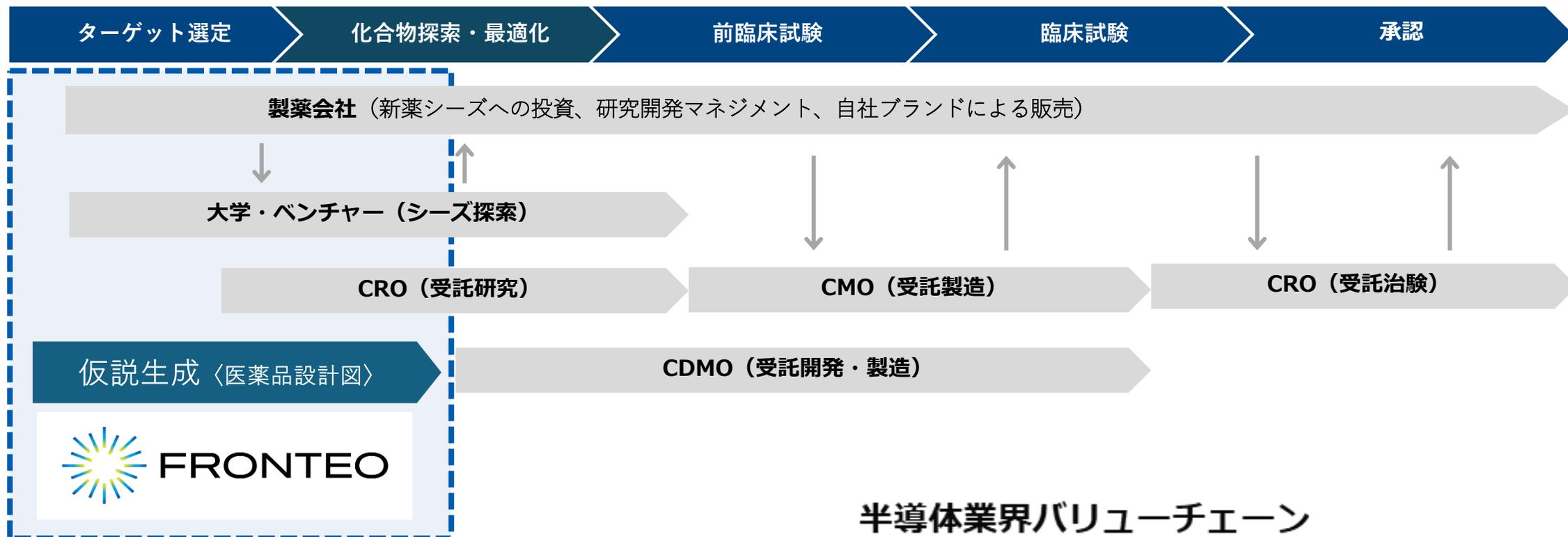
- ◆ 複数の新規標的分子を発見
- ◆ 細胞実験でがん細胞株の増殖抑制を確認



- すい臓がんの5年生存率は10%以下
- 非常に予後が悪く、有効な治療法もない

効果を確認された各標的分子について、複数の研究指針を策定

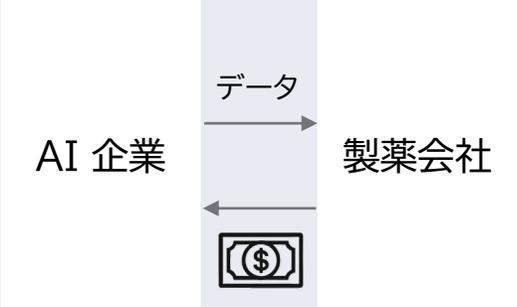




半導体業界バリューチェーン



03 ステージ4(中期計画) FY28のイメージ

一般的なモデル	具体事例		
<p data-bbox="231 415 652 508">特定疾患領域における新規の標的探索</p>  <p data-bbox="216 935 682 1110"> <ul style="list-style-type: none"> ● 契約一時金 ● マイルストーン ● ロイヤリティ </p>	企業	疾患領域	取引条件
	AI創薬企業A社 × グローバル製薬企業A社	2019: 慢性腎疾患(CKD)と 特発性肺線維症(IPF) 2022: 全身性エリテマトーデスと 心不全を追加	<ul style="list-style-type: none"> ● 契約一時金、マイルストーン、ロイヤリティ (金額非公表) ● 2022年に5つの標的特定
	AI創薬企業B社 × グローバル製薬企業B社	2021 'key areas of neuroscience' and oncology	<ul style="list-style-type: none"> ● 約220億円 (\$150 百万)契約一時金 ● 約500億円 (\$300 百万)マイルストーン ● ロイヤリティ
	テックバイオC社 × グローバル製薬企業C社	加齢関連疾患	<ul style="list-style-type: none"> ● 契約一時金:金額非公表 ● 上限約380億円 (\$250 百万)を受取るマイルストーン
	テックバイオD社	6つのモダリティ (anti-body, cell therapies)	<ul style="list-style-type: none"> ● サブスクリプション契約 (Innovation Subscription) ● 取引基本契約 (年間数億円, ローン型) ● 共同研究 (e.g., Sanofi: 約40億(\$27 百万)、契約一時金、上限約600億円 (\$400 百万))

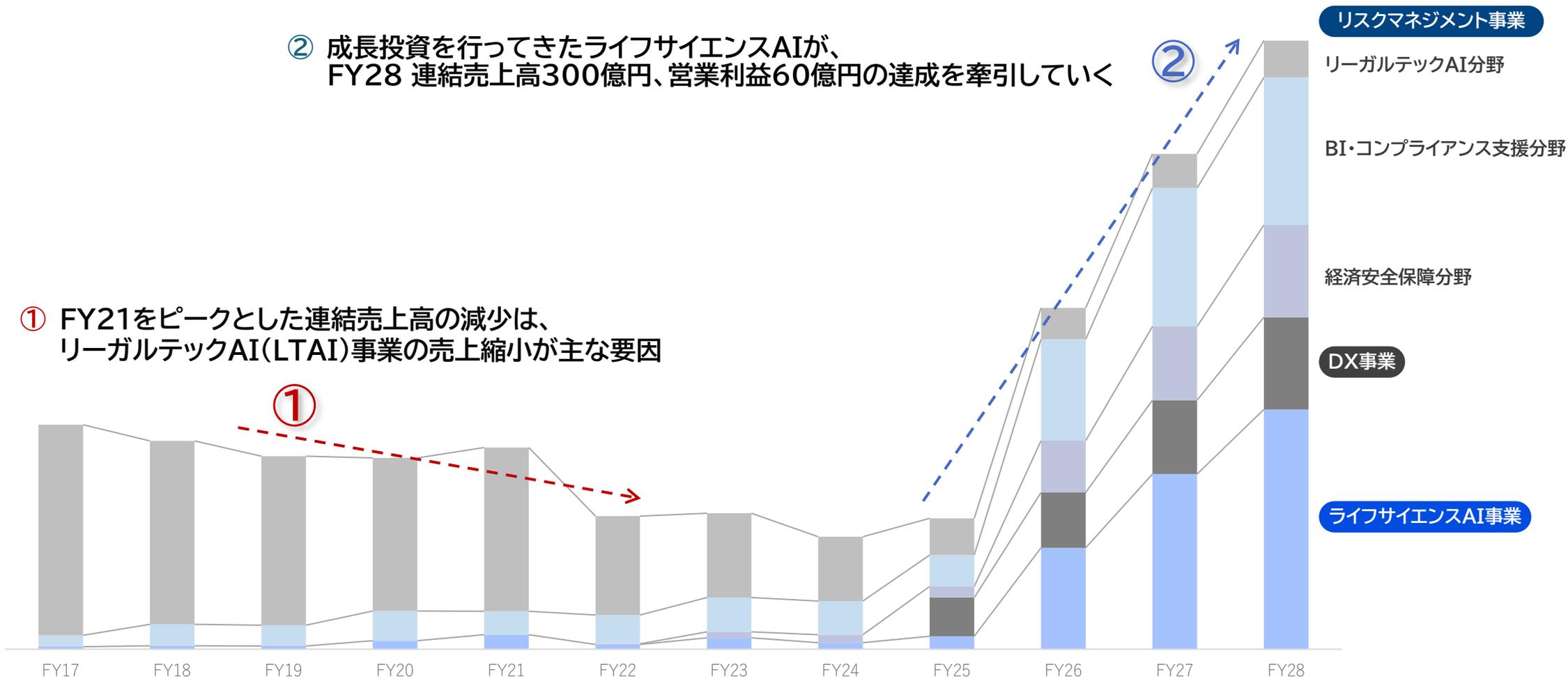
*1ドル150円計算

ステージ4* (中期計画) FY28の売上高イメージ

ライフサイエンスAIをステージ4*の中核事業と位置づけ、経営資源の集中を徹底

② 成長投資を行ってきたライフサイエンスAIが、FY28 連結売上高300億円、営業利益60億円の達成を牽引していく

① FY21をピークとした連結売上高の減少は、リーガルテックAI(LTAI)事業の売上縮小が主な要因



*ステージ4:成長可能性資料参照

04 2026年3月期第1四半期 決算サマリー

2026年3月期 1Q 経営指標

- | 連結売上高、連結営業利益は、下期偏重になる想定通りの進捗
- | 営業損失の主要因は、FY24に実施したリーガルテックAI分野の米国事業撤退費用(業績予想織込み済み)
- | 成長分野であるライフサイエンスAI事業への採用投資を加速

連結業績		ライフサイエンスAI事業	
売上高	1,546百万円 進捗率 22.1%	売上高	107百万円 進捗率 15.4%
営業利益	▲88百万円	営業利益	▲137百万円
EBITDA	17百万円	リスクマネジメント事業	
		売上高	966百万円 進捗率 23.0%
		営業利益	▲7百万円
		DX事業	
		売上高	472百万円 進捗率 22.5%
		営業利益	56百万円



お問い合わせ先 株式会社FRONTEO
email: ir_info@fronteo.com

将来見通しに関する注意事項

本資料につきましては、投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を確認された上で、ご利用ください。業界等における記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させて頂くものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。